

「希望のないところから」

詩編 94編18節

「足がよろめく」と私が言ったとき、主よ、あなたの慈しみが支えてくれました。

日本キリスト改革派東京教会牧師・本学講師 野島 邦夫

新しい生活が始まる、親元から離れて精神的に独り立ちして、自分でものを考え、自分で少しでも収入を得て、新しい知識を身につけて、多くの友人をつくって、・・・と考えて大学に入られた学生の皆様を、いま励ます言葉はなかなか見つかりません。一年半以上に及ぶ深刻なコロナ禍の中で、私たちの生活は大きく変えられました。諸大学でもなお授業は対面に戻ったとは言えませんし、部活動サークル活動は大きく制限されたままです。一、二年生の皆様は、入学以来授業は主にオンラインでほとんど大学に来られたことがないでしょうし、新しい友人が全くできないと言う人もおられるでしょう。先日の新聞に一人の大学生が「オンラインで一番難しいのは、友だちづくりだと感じます」と書いておられました。その隣に、ある大学の先生が「親密になるのに『三密』は不可欠ですが、今は事実上禁止です」と書いておられました。その通りです。¹

八方ふさがりの闇の中、小さくても心が明るくなる光はどこにあるのでしょうか。「こうであつたらいいなあ」と思い、その実現の可能性が少しでもあって、それで心が明るくなるものを「希望」と言います。今の皆様は、入学前抱いておられた多くの希望が、実現できないままことごとく消えた状態でしょう。しかし希望が全くない状態で人は長く健全にいられません。逆境の中で、それが深刻であればあるほど、ごく小さな希望でも大切です、それが生きる力、そして前進する大きな力になりますから。どこに希望を見出せばよいのでしょうか。

「逆境を経験するのは君たちだけではない、アフガニスタンの人を見ろ、もっとひどいぞ」という言い方は正しいでしょうが、現に自分のことで悩んでいる皆様には何の力にもならないでしょう。「考え方を変えて、今の特殊な状況を経験できることをむしろ喜び、ここから他の世代は知りえない多くのことを学べ」、と言うのも、酷です。実際に皆様を励ますのは別のことでなくてはなりません。私はその第一は「人との交流をつくる」ことだと思えます。それだけでも生きる喜びになりますし、そこから、助け合いが生まれ、希望が広がり、現実化します。では、どのように人とのかかわりをつくるのか — それについては、皆さまと立場が違う私には適切な助言ができません。ただ、私がこう確信をもって言うのは、私自身(教会牧師です)に教会の人たちというよい仲間との交流があり、大いに励まされているからです。クリスチャンは誰でも、逆境の中、「もうだめだ」と希望を失い倒れそうになった時神様に助けられた経験を持ちますから、人の苦しみを一層よく理解できます。ですから、教会を訪ねるのもよいのではないかと思います。

(祈り)

天の神よ、希望を失い倒れそうになっている学生諸兄弟を、あなたの御手によって道を拓いてください。イエスキリストの御名により祈ります。

2021年10月19日 聖学院大学 全学シリーズ礼拝「聖書が語る希望」

¹ これら二つの引用は、2021年9月15日付朝日新聞「『コロナ世代』の将来は」から。